

第3回 NIE セミナー帯広・十勝

# 帯広市立帯広第五中学校 における新聞教育



日時：2005年2月12日(土)

会場：北海道新聞帯広支社2階会議室

発表者：帯広市立帯広第五中学校

教諭 高橋 明子

## 1 はじめに

本校は日本新聞教育文化財団より、平成16年度NIE実践校に指定された。期間は2年間、C型（6人以上の教師による実践）ということで、9月1日より7紙（道新、朝日、産経、勝毎、日経、毎日、デイリー読売）のべ6ヶ月の提供を受けることになった。そして、現在、朝刊、夕刊が土日、休日も含め7紙の新聞が毎日学校に届いている。今回は、NIE実践校としての本校の取り組みを紹介する。

\*資料1参照

## 2 実践内容

### (1) NIEコーナーの設置

1階ホールに、新聞を自由に閲覧できる「NIEコーナー」を設けた。生徒は、主に休み時間を利用して、新聞に目を通している。また、新聞の管理については、毎日、報道常任委員が放課後に整理し、古くなったものは図書室に運んでいる。図書室にはラックを置き、自由に一覧できるようにした。図書室内での整理は図書局員が行い、多くの生徒がNIEに関われるようにしている。



昼休みに新聞を読む生徒（1階玄関ホール）



新聞を整理している図書局員（図書室）

(2) 総合的な学習の時間

平成15年度より、総合的な学習の時間の中で壁新聞づくりに全校で取り組んでいる。各学級7～8名で4～5班を編成し、全員が壁新聞づくりに参加している。総合の計画については以下の通り。

総合的な学習の時間の時数内容（各学年70時間） \*資料2参照

1年	2年	3年
新聞教育 2.2時間	新聞教育 2.2時間	新聞教育 2.2時間
職業調査 1.6時間	職業調査 1.6時間	職業人 1.3時間
環境 6時間	福祉 8時間	ボランティア 7時間
福祉 1.0時間	自然体験 8時間	修学旅行 1.2時間
その他 1.6時間	その他 1.6時間	その他 1.6時

【成果】

- 新聞を作ることで身に付けさせたい力である表現力、考察力、情報活用力などを育成させることができた。
- 今年度で2年目だが、去年より完成度も高く経験が生きている。

【課題】

- 担任一人で4～5枚の壁新聞づくりに関わるため、原稿チェックや、レイアウトの指導など担任にかかる負担が大きい。副担任とのさらなる連携も必要である。
- 身につけた力をその後の学級新聞や授業など他の活動で活かしてきれていない。

(3) 朝の会・帰りの会（学活）

現在、3学級で「今日のニュース」のコーナーを設け、毎日日直がニュースを発表する。日直は、朝刊や前日の夕刊から、クラスみんなに紹介したいニュースをまとめ、事前に準備する。

【今後の課題】

- ・ 学活に新聞を活用する中で、身に付けさせたい力（社会への興味・関心、内容を理解してまとめる力、表現力、話を聞く力）がどうなったかをきちんと分析していかねばならない。
- ・ 後期から始めたため、準備がまだまだ不十分である。掲示板などに記事を掲示するなどして、多くの生徒と意見交流をする場を設ける必要がある。

(4) 社会科での取り組み

- ・ 1年の夏休み冬休みの課題で新聞スクラップに取り組んでいる。
- ・ 3年社会科では、授業の中で新聞スクラップに取り組んだ。

\*資料3・4参照

(5) 英語科での取り組み

選択2年 B 英語Ⅱ（生徒数27名）の中で扱った。現在、学校に届いている英字新聞「デイリー読売」では難易度が高いため、「Catch a Wave」（浜島書店）を使って、時事問題の読解に取り組んだ。

- \* 「Catch a Wave」：今、テレビ、新聞で流れているニュースがカラー写真付きの簡単な英語で読める新聞。英検3・準2級、TOEIC450点レベルの英文で書かれている。  
\*資料5参照

\*\*\*\*\*簡単な授業の流れ\*\*\*\*\*

1 見出しから記事の内容を推測する（5分）

生徒が普段耳にしたり、ニュースで慣れ親しんだ記事を選出し、見出しを提示する。知っている語句をヒントに、記事の内容を推測させる。

2 聞き取り（5分）

CDを聞きながら、記事を黙読する。見ただけではわからない単語でも、単語の音から意味を推測することができる。

3 読解（20分）

ハンドアウトには、予め新出単語や、キーワードとなる単語の意味を提示しておく。記事の内容理解に関する問題を解く。

\*資料6参照

4 解説（10分）

問題の答え合わせをし、記事の内容を理解する。

5 感想（10分）

- ・記事の内容についてどう思ったか、感想を記入する。

- ・理解を深めるため日本語で書く。

- ・感想を発表し合い、お互いの意見を聞き合う。



【成果】

- 教科書の英文だけでなく、英語で書かれた本物の雑誌や新聞を読めるという自信をつけることができた。
- 記事の内容はやや難しいという声が多いが、その理解度は高く、実践的な英語力の育成に貢献することができた。
- 社会のニュースに目を向け、その問題に対する自分の意見をもち、関心を深めることができた。
- 時事英語に触れたことで、本物の英字新聞も読んでみたいという動機を高めること

ができた。

- 見出しなど、新聞の中で使われる独特の英語表現を理解することができた。

#### 【課題】

- 難易度のことを考え、あえて学校に配達される英字新聞「デイリー読売」を使わなかったが、アンケート結果より、生徒からは本物の英字新聞を読みたいという声もあがった。今後は、その新聞を授業の中でどのように扱っていくかが課題である。
- 記事を読んだの考えを今後は、英語で表現できるように発展させて行くことが必要である。
- 英字新聞と日本語の新聞記事とを比較するなど、さらに発展させて理解を深められたら良い。

\*資料7参照

## まとめ

- NIE 実践校になり半年間の取り組みではあるが、生徒たちは毎日新聞を目にすることにより社会のニュースに、以前より目を向けるようになり、確実に興味や関心が高まっている。
- 自由に新聞を閲覧できる「NIE コーナー」を設置したことにより、朝の会前や、10分休み、昼休みなど、新聞を手に入れている生徒をみかけるようになった。特定の生徒に限らず、多くの生徒に利用されるようになってきている。
- 新聞が7紙そろっていると、総合的な学習の時間、学活、社会科、英語科など、さまざまな授業においても大変使いやすい環境にある。
- 土日、祝日も含めて、朝刊、夕刊、7紙の新聞が毎日学校に届くため、整理が大変である。
- NIE 実践校に指定されたが、教職員全員がその取り組みを理解し、参加しているという状況ではないので、今後は会員以外の周りに、どう新聞教育を反映させていくかが今後の課題である。